

第56回近畿地区国立大学体育大会陸上競技の部

日時:平成30年8月12日(日) 於:紀三井寺総合運動公園陸上競技場

【男子対校成績】

順位	1位	2位	3位	4位	5位
大学名	大教大	京都大	神戸大	大阪大	京教大
総合	161	139	121	110	54
トラック	71	77	72	65	33
フィールド	90	62	49	45	21

【女子対校成績】

順位	1位	2位	3位	4位	5位
大学名	京教大	大教大	大阪大	京都大	神戸大
総合	154	93	89	45	40
トラック	117	46	58	13	22
フィールド	37	47	31	32	18

<男子>

種目	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
100m	2	近藤佑哉(4)	予 10"88 (-0.6) 決 10"91 (+0.3)	q
	6	喜多政天(2)	予 10"94 (+1.8) 決 11"01 (+0.3)	Q
		高岡祐大(1)	予 11"22 (+0.7)	
200m	8	喜多政天(2)	予 22"64 (+2.1) 決 22"95 (-1.2)	Q
		野崎佑一(2)	予 22"86 (+1.7)	
		高岡祐大(1)	DNS	
400m	2	植田悠貴(M2)	予 48"58 決 48"37	Q
	3	高柳正徳(3)	予 49"27 決 49"13	Q
		伊藤智也(3)	予 51"50	
800m	4	南部 慎(3)	予 2'00"20 決 1'58"17	Q
	7	延命勇実(2)	予 1'58"54 決 2'05"25	q
		木村俊司(3)	予 2'03"48	
1500m	4	桂 翔太(4)	予 4'09"74 決 4'11"15	Q
	5	郷原一眞(2)	予 4'11"54 決 4'11"97	q
		湯浅 賢(2)	予 4'18"61 決 4'29"99	Q
5000m	4	平井大誠(3)	15'58"08	
		根本夏生(3)	17'33"55	
		丸岡克成(M2)	DNS	
110mH	2	藤原雅志(M1)	予 15"18 (-1.2) 決 14"98 (-0.9)	Q
		花崎仁実(2)	予 16"16 (-1.2)	
		山口大地(3)	DNS	
400mH	2	清水和輝(M1)	予 55"02 決 54"28	Q
	8	藤原雅志(M1)	予 56"48 決 57"42	Q
		山口大地(3)	DNS	
3000mSC	2	藤田竣也(M1)	9'20"55	
		松井悠真(2)	10'38"44	大学初
スウェーデンリレー	2	喜多(2)近藤(4) 高柳(3)植田(M2)	★1'54"40	★学内新
走高跳	3	小西 満(3)	1m93	自己タイ
	8	神田 実(3)	1m70	自己タイ
棒高跳		早川雄己(M2)	NM	
		金澤佳緯(3)	NM	
		西田浩太郎(2)	NM	
走幅跳	2	高松 稜(1)	7m05 (+1.0)	
	6	神田 実(3)	6m67 (+0.1)	自己新
		金澤佳緯(3)	6m31 (+0.5)	
三段跳	1	神田 実(3)	14m69 (+0.8)	
	7	金澤佳緯(3)	14m09 (+0.5)	自己新
		小西 満(3)	13m53 (+0.5)	自己新

種目	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
砲丸投	2	上野環太(M1)	11m36	
		西田浩太郎(2)	6m30	
		高畑大地(2)	DNS	
円盤投	2	上野環太(M1)	★43m14	自己新 ★学内新
		高畑大地(2)	34m43	
		田上涼太(1)	21m05	
やり投	4	上野環太(M1)	53m66	
		西田浩太郎(2)	28m93	
		田上涼太(1)	24m76	大学初
ハンマー投		田上涼太(1)	9m15	大学初
		高畑大地(2)	DNS	



三段跳 優勝 神田 実(3)



円盤投 学内新記録 43m14 上野環太(M1)



スウェーデンリレー学内新記録 アンカー植田悠貴(M2)

<女子>

種目	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
100m		和三はるか(1)	予 12"95 (+0.1)	大学初
		武村明香(3)	予 13"28 (-2.5)	
		臼井晴香(1)	予 13"64 (+0.9)	大学初
200m		荻野今日子(2)	予 28"45 (-0.4)	自己新
		宮崎奏菜(2)	予 29"07 (-0.1)	自己新
		野口ひかり(3)	予 29"75 (+0.5)	
400m		佐長亜彩(2)	予 1'03"12	
		荻野今日子(2)	予 1'04"52	
		宮崎奏菜(2)	予 1'06"11	大学ベスト
800m	7	宮崎安奈(3)	予 2'26"67 決 2'26"93	q
		園田那織(2)	予 2'30"05	
		佐長亜彩(2)	予 2'30"47	
1500m	6	甲斐麻華(3)	5'03"70	
		宮崎安奈(3)	5'07"44	
		小坂みゆ海(1)	5'18"20	大学ベスト
3000m	5	甲斐麻華(3)	11'23"50	
	7	岡下真子(1)	11'43"07	大学ベスト
	8	小坂みゆ海(1)	11'48"47	大学初
100mH	6	和三はるか(1)	予 15"55 (-2.5) 決 15"29 (-0.2)	Q 大学ベスト
	7	武村明香(3)	予 16"31 (-2.0) 決 16"31 (-0.2)	q
4×100mR	4	臼井(1)和三(1) 岩倉(2)武村(3)	51"11	
走高跳	2	日高水樹(3)	1m63	
走幅跳	1	武村明香(3)	5m65 (+1.8)	
		岩倉美晴(2)	4m74 (+1.7)	
		末廣真子(4)	DNS	
砲丸投	6	日高水樹(3)	8m90	



走幅跳 優勝 武村明香(3)



走高跳 2位 日高水樹(3)

主将:神田 実

近国では決勝進出者が多く、特に得点分析では圏外だった選手が目立ちました。久しぶりに対校戦で勢いをみせることができたと思います。しかし2部校である大教大には圧倒的な差をつけられました。1部昇格するためには実力はまだまだ足りていないので、関カレでの大量得点を狙える選手の育成を目指し、また1人でも多く入賞に近づけるように、練習に励んで参ります。暑い中、応援ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

女子主将:武村明香

今年の女子チームは総合55点とベスト更新7個を目標に戦いました。結果としては、総合40点、ベスト更新6個でした。総合得点では投擲を専門としている選手がいないことや、力のある先輩方が抜けられたことなどで厳しい戦いとなりましたが、猛暑の中女子チームからベストを6個も更新できたことは良い収穫となりました。次の西日本五大学や秋の京阪神では総合優勝できるよう、1人ひとりがレベルアップしチームとしてより高みを目指して精進していきます。最後になりましたが、暑い中たくさんの応援本当にありがとうございました。

ご来援いただきましたOB・OGの皆様、ご声援ありがとうございました！（敬称略）

平田明男(新18) 鎌田早苗(新32) 村田一立(新65) ほかにお二人(氏名不詳)

西京極で歓喜の総合優勝を見届けてから4年。当時を知る学生がみんな卒業して、改めて挑戦者として取り組む大会を、今年も応援させていただいた。今年の会場は和歌山県紀三井寺陸上競技場。約40年前、高校1年生の時、近畿ジュニア大会（現近畿ユース大会）で走ったという記憶はあるが、どんな競技場だったか、どうやって行ったかも、そのときの記録も覚えていない。初めて行くのと同じ気持ちで訪れた会場は、2015年の国体会場だったとのことできれいに整備された競技場になっていた。

最初の決勝種目は1500mで、3人がエントリーした。甲斐は昨年を上回る5'03"70で今年も6位と着実に得点を取った。宮崎安奈は5'07"44で9位、小坂は5'18"20で11位とよく頑張っていたが、得点をするにはできなかった。一方これに先立ち最初のトラック種目だった男子1500m予選では、桂、郷原、湯浅の3名が、他大学の選手の飛び出しや、選手が一団となる序盤のスローペースをうまくかわし、3名とも決勝に進んだ。これが、今年の男子の頑張りに勢いづけるきっかけになったかもしれない。

走高跳には日高が出場した。160cmをクリアした時点で大教大の選手との一騎打ちになり、163cmは日高が先にクリアしたが、相手も3回目にクリア、166cmは逆に相手が1回目でクリアしたが、日高はクリアできずに今年も2位だった。同じ時刻に行われていたトラックレースに応援をしながら、自分の集中力も高める様子は、これからの神大女子の中心になるだろうと期待がもてる。日高は砲丸投にも出場し、8m90で6位に入賞した。昨年はやり投に出場するなど、専門種目以外にもチャレンジする姿勢は、だれでもができることではないが、その意欲は評価できる。

100mHには武村と1回生の和三が出場し、どちらも決勝に進出した。予選がある種目で2名が決勝（トップ8）に残って得点したのは、女子ではこの種目だけだったというのは、ここ数年の活躍を知る立場としては残念に思う。決勝で和三は15"29の大学ベストで6位だった。13秒台のベストタイムを持つ和三にとって、まだまだこんなものではないだろうし、何より本人が満足していないのではないだろうか。受験や環境の変化で多くの選手が一度は低迷するが、そのトンネルを抜けて、自己記録を更新し、大きな大会への出場を果たした先輩も大勢いる。努力を続けて、ぜひ乗り越えてほしい。武村は16"31で7位に入った。武村はこの大会では他に100mと走幅跳にも出場し、走幅跳では5m65で優勝した。女子主将となり、先輩たちのようにたくましい走りでも神大女子を引っ張っていこう。走幅跳には岩倉も出場したが、4m74でトップ8には残れなかった。

短距離種目は、100m、200m、400mの予選に3名ずつ出場したが、いずれも決勝に残れなかった。100mは和三が12"95、武村が13"28、臼井が13"64だった。100mの決勝進出ラインが12"93だったことを思うと、予選3着だった和三は本当に惜しかった。本来棒高跳が専門の臼井は自分の種目に参加できる大会は数少なく、対校戦では、専門外の種目に参加せざるを得ないことが多いだろう。どの種目でも基本的な走力が必要なことは変わらないので、「自分のことを考える大会」と「チームのことを考える大会」とに考えを切り替えて、今後も貢献してほしい。200mは荻野が28"45、宮崎奏菜が29"07、野口が29"75。自己記録を更新した選手もいたが、決勝では「全員が予選記録26秒台です」というアナウンスがあり、かなり差がついた感がした。400mは佐長が1'03"12、荻野が1'04"52、宮崎奏菜が1'06"11だった。決勝進出には1'03"を切るが必要で、ここでも少し差がついた。各種目の決勝進出タイムを確認し、そこを目標に練習を重ねて、力をつけてほしい。

800mも予選に3名が出場した。宮崎安奈は前半集団に付き、2周目一度は先頭に出るレース。4着だったが2'26"67で決勝に残った。園田は終始ついていくレースで2'30"05、佐長は前半3番目につけていたが、400m予選の疲れからか後半伸びず2'30"47で惜しくも決勝進出を逃した。決勝のレースは1人が飛び出し、2位以下は混戦だったが、宮崎は最後に追い込み切れず、2'26"93で7位だった。昨年は800m決勝1本のレースだったが、今年も1500m決勝も含めて3本走り切った。自信をもって今後の競技に取り組んでほしい。

3000m決勝にも3名が出場した。15時を過ぎても強い日差し、また、意外に強い風に悩まされたであろう、厳しいレースを完走した。甲斐は第2集団でレースを進めて11'23"50の5位、この種目1本の岡下は第3集団でレースを進めて11'43"07の大学ベストで7位、小坂は1人で走る時間が長かったがよく頑張り11'47"48で8位と3名が得点した。今年の暑さは例年になく厳しさで、練習できる時間や内容を考えなければならないだろうが、他大学も状況は同じ。中距離、長距離の選手たちもしっかり力をつけて秋のシーズンで活躍してほしい。

4×100mRは臼井-和三-岩倉-武村のオーダーで、51"11の4位だった。いちばんアウトのレーンで走りづらかったかも知れないが、健闘していたと思う。

対校得点は、トラックが22点で4位、フィールドが18点で5位、総合が40点で5位だった。大会前の目標は総合得点55点と自己記録更新7つとのことで、そのどちらも惜しいところで達成できなかった。ここ数年の神大女子はこの大会で総合優勝するという大きい目標を共有していた。しかし、今の女子たちに同じことを求めるものではない。私が最近ハマっている、高校生のチアダンス部をテーマにしたドラマでは、最も大きい目標、それを達成するための一段階小さな目標、それを達成するためのもう一段階小さな目標・・・と何段階も小さく

していき、最後に今の目標を決めて努力を続ける様子が描かれていた。今の神大女子は逆で、まずは目の前の目標、それを達成して次の目標、という風に、できるところから取り組んでいき、達成感を得ていく方法が良いのかもしれないと思った。また、私が在学していた頃は大阪大学や京都大学には女子の選手がほとんどいなかった。それが、ここ近年では人数も増え、競技力も向上している。練習環境に恵まれないのは神大の永遠の課題であるが、それをはねのけ、競い合えるパワーのある陸上部であってほしいと願っている。

ここ数年女子の勢いに押されがちな男子だったが、昨年に引き続き、今年はさらに健闘し、多くの種目で複数の選手が決勝進出やトップ8を達成し、得点をあげることができた。

100mでは近藤が混戦の決勝で10"91の2位、昨年3位だった喜多は11"01で6位に入った。喜多は200mでも決勝に残り、22"95で8位だった。最も暑い時間帯でリレーを含めて3本の決勝レースを走ったのは体力的にきつかったのだろうか。400mは2名が着順で決勝に残り、昨年まで800mに出ていた植田が48"37で2位、高柳は49"13で3位に入った。800mは昨年6位の南部が決勝で1'58"17の4位。昨年より、タイムも順位も上げた。延命は2'05"25の7位だった。オープンレーンになるところでの位置取りがうまくできればもう少し違った展開になったかもしれない。朝一番のレースで3名が決勝に残った1500mは、桂が4'11"15で5位、最後に追い込んだ郷原が4'11"97で6位に入った。湯浅は4'29"99で12位だった。大教大の選手がこの暑さの中で独走し、3'52"17の大会新記録を出したことは素晴らしい。5000mは第2集団からレースを進めた平井が15'58"08の4位、後方から追いかけた根本が17'33"55の14位だった。

110mHは予選3番目だった藤原雅志が大混戦の中、3着と1000分の4秒差の2着でゴールに飛び込んだ。400mHでは、予選の最後で流す余裕を見せた清水が決勝でも頑張り54"28で2位だった。優勝した京教大の選手とレーンが近ければもう少し競り合ったレースができたかもしれない。藤原雅志は110mH決勝から45分後のレースで疲れがあったか、予選ほど伸びず57"42で8位だった。3000mSCでは藤田が最後1周まで先頭を引っ張る積極的なレースで9'20"55の2位、松井が10'38"44で11位だった。

フィールド種目もそれぞれに力を発揮していた。走高跳では小西が1m93の3位、神田が1m70の8位でそれぞれ自己タイ記録を出した。棒高跳は早川、金澤、西田が出場したが、3人とも記録を残せなかった。風が強く、どの選手も苦戦した様子で、参加13名中6名が記録なしに終わっている。走幅跳は高松が5回目で一度はトップに立ったが、6回目で大教大の選手に逆転されて5cm差の2位、神田は6m67の自己記録で6位、金澤は6m31だった。三段跳は神田が14m69で事前ランキングの劣勢を覆して優勝。金澤は14m09での自己記録で7位に入賞、小西満も13m53の自己記録だった。昨年21点を獲得した投てき競技は、今年もがんばっていた。砲丸投では上野が11m36で昨年を上回る2位、本来十種競技の西田は6m30だった。トップ8とは約3mの差があり、これから伸ばしてほしいところだ。円盤投でも上野が43m15の自己記録、学内新で2位、この種目に絞った高畑が34m63と去年を大きく上回る記録で6位に入った。また、1回生の田上が21m05を記録した。円盤投は昨年幻の日本記録更新、また、今年も日本選手権で従来の記録を1m以上更新する日本新記録が出るなど、今話題の種目である。

一方、神大の歴代記録には、円盤の重さが異なるかもしれないが、3位に新29回野田耕嗣先輩の38m98など、昭和の記録が6つも残っている。現役選手の更なる奮起を期待したい。昨年入賞がならなかったやり投は上野が53m66の4位に入り、3種目すべてで得点した。西田は28m93、田上は24m76だった。ハンマー投げは近年出場がなかったと思うが、今年は田上が出場、9m15という記録を残した。

スウェーデンリレーは喜多 - 近藤 - 高柳 - 植田のオーダーで9レーンフル使用の決勝レースに臨んだ。第2走者までは混戦だったが、第3走者がオープンレーンになるところで、うまい位置取りをした。アンカーも追ってくる他大学をうまくかわして、1'54"40の2位、従来の学内記録を100分の1秒更新する学内新記録だった。最終種目のリレーで好記録が出ると、大会全体が良かった印象が残る。今年はいよいよ終わり方ができたと思う。

対校得点はトラック競技は72点を獲得し2位、フィールド競技は49点で3位、総合が121点で3位だった。男子の表情が明るかったのは、手応えを感じられたからだろう。現幹部を中心に、今後の大会の活躍を期待している。

2月に冬季オリンピックが終わり、日本中が「次はTOKYO2020」と湧いている。3代目山の神、神野大地選手も、柔道の阿部一二三選手も、初めは同年代の女子にも負けたくらいの選手だったが、そこからの努力で日本を代表する選手になった。神大の選手たちも、スタート地点はともかく、今後の努力で記録を伸ばすことは可能だ。自分と仲間を信じて、選手としても、人としても成長してほしい。



新32 鎌田早苗さん 神田主将 武村女子主将 平田副会長